

# 2009年春節合同新年会



弁論大会

劉さん

春節前夜の1月25日(日)、岡山華僑・華人総会主催の祝賀会が、約150人が参加して岡山国際交流センターで開かれた。

まず、昨年の北京五輪や有人宇宙衛星の成功などを受けて活気に溢れた開会行事があった。

その後、6人の若者による日本語弁論大会が行われた。その弁論の内容で特徴的であったのは、彼らの多くが日本の生活期間に長短はあるが、日本の習慣、文化を積極的に身につけようという強い意欲を感じさせられたことである。その証として留学生、企業の研修生等、立場は違っても、その話す日本語は流暢であった。そして内容も日本人の友人・上司・ホームステイ先の家族に対する感謝や好意的な印象があった。

続いてカラオケ大会が開かれた。日本の歌を中国語で、また日本語で、中国の名曲や最新の歌をそれぞれ熱唱してくれた。彼らにとってカラオケは生活に溶け込んだものとなっているようだ。

その後軽食の懇親会があった。人の多さと短時間のために懇親する機会が無かったのが残念であった。

現在県内には9000人以上の華僑・華人が在住していると言う。我々も彼らと相互発信する機会をこれまで以上に持ちたいと感じた。

井上進夫

## 海上自衛隊のソマリア派遣に危惧 政府に要請文を送付

日中友好協会は政府がソマリア沖海賊対策として、海上自衛隊の派遣を進めようとしていることに對して、麻生首相と浜田靖一防衛大臣に要請文を送付しました。

自衛隊海外派兵の恒久化と、日本国憲法が禁じている集団的自衛権の既成事実化をはかるものとして、この派遣に強い危惧を抱かざるをえません。

日本中国友好協会は、日本政府が、軍事行動の既成事実化で取り返しのつかない過ちを犯すことがないように、自衛隊派遣ではなく、ソマリア周辺諸国との海上保安庁を中心とした海上警備の協力をすすめ、また海賊問題の根底にあると言われるソマリアの内戦による混乱と貧困の解決のための経済援助をはじめとした支援を、国際社会との連携のもとに強めることを要請します。

日中友好協会  
岡山支部  
〒703-8256  
岡山市東区3-8-30-514  
TEL.086)272-3010  
郵便振替口座  
01250-0-3835  
http://rizhong.web.infoseek.co.jp/

日中友好新聞  
発行所  
日本中国友好協会  
〒703-0945 岡山県千代田区  
西陣22-1-1 東方学生会館

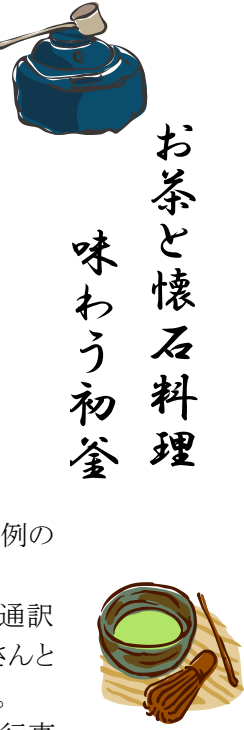
日中友好協会岡山支部ホームページ  
http://rizhong.web.infoseek.co.jp  
メールアドレス  
rizhong86@hotmail.co.jp

## 12月8日「平和のつどい」 再びあの道をゆかせてはならない



後列左から馬さん 何さん 前列は小林夫妻

1月18日、日中岡山小林事務局長宅で恒例のお茶と懐石料理を味わう初釜がありました。この席に日中岡山の望年会など諸行事で通訳を担当してくれている岡大留学生の何曉麗さんと馬小菲(マ シアオフェイ)さんが参加しました。2人は、着物を着せてもらい日本の新年の行事を楽しみました。



お茶と懐石料理  
味わう初釜

12月8日がどんな日か知らない人が多くなった昨今ですが私は毎年この日に開かれる平和の集いは欠かさず出て反戦平和への誓いを新たにしています。

今年の六日には「すいとんの会」を開き、皆さんですいとんを頂きなごら当時を偲び二百人余りの参加者で語りあいました。昨年の12月8日の「平和の集い」は夜です。老いの身は中々大変と迷いながら友に声をかけまし

たが、寒いからイヤ」とことわられ、それなら尚更と心に鞭打つて国際交流センターへ出かけました。

名古屋高裁が「イラクでの航空自衛隊の活動は憲法違反」という当然乍ら歴史的な判決をだしました。この判決を勝ちとった池住義憲(自衛隊イラク派兵差し止め訴訟の会代表)さんが活動の報告をしました。この報告は自分達で知恵と力を出

し合つて、それは並々ならぬ努力の結果、その活動を正確な描写で情熱を持って話して下さい、聞く私は身が震える感動を押しさえられませんでした。自衛隊が現地で運んだものの情報公開を求めた返答は一枚のみ判明、あとは全て真っ黒に塗りつぶされていて、この資料も回覧してくださりました。国民に知らされない物だからこそ黒塗りしたことを証明した紙を見て、戦中の伏せ黒塗りを連想しぞつとこわいものを感じました。

日本は再びあの道をゆくのか、ゆかせてはならないと強く感じ出席して良かったと心から思いました。

自衛隊イラク派兵を即座に決めた政府高官であった竹内行夫最高裁判官に、国民審査で×印を書くことを忘れないで、と言われました。私達は何ともつと知らねばいけません。知ることには学ぶこと、一緒に出来なかつた友にもしっかりと話をせねばと心に刻んで寒さを忘れ、揚々と帰路に着きました。



梶尾玲子



# 漫画 内山完造の生涯



内山完造没後、50周年を記念して、5月17日に井原市で記念式典が行われます。それに先立ち、先人顕彰会・井原が昨年の9月30日に、南一平氏による、漫画「内山完造の生涯」を刊行しました。内山完造は1885年当時の後月郡吉井村で産まれ、1950年には日本中国友好協会を組織し初代理事に就任しました。1959年74歳、北京で死去しています。

上海で開店していた内山書店は、中国の文学者魯迅が通っており、内山完造は魯迅一家と

生涯、友好を深め、国民党からかくまうことに尽力をしてい

す。また、戦後、日中国交回復以前に中国残留日本人の帰国を実現させていること、あるいは、戦前、治安維持法で弾圧を受け中国に亡命していた鹿地亘が戦後アメリカ軍によって拉致・監禁されていることを日本で極秘に知った内山完造は鹿地婦人や猪俣代議士らと共に救出に成功しています。

内山完造は1913年に参天堂の上海出張員として、中国に渡って以来、中国に骨を埋めるごとく、日本の中国侵略の中で中国の抗日運動、終戦後も国交の回復しない日中の情勢を駆け抜けています。なぜ、中国人の信頼を得て、数々の功績を残したのか、漫画「内山完造」を読んでみるとなるほどと思うのです。



昨年、北京から太極拳のサイトと太極拳の映像ブログを紹介くださった任 海涛氏から新年の賀状が届きました。

# 平和を訪ねる南京の旅 ③

稲葉泰子

私は、約3年前に初めて大連に行き2回目の今回、上海と南京を訪れました。

大連では北京オリンピックを前にして、あつちこつちで工事が行われている様子に接し、今回の上海では、2010年の上海万博をめざして行われている工場のラッシュに接することになりました。大連でも都市化の波の中

で、富裕層と貧困層の格差の激しさを見ましたが、今回はそれにも増して肌身に感じました。

## 「暮らしの格差」

疑問の一つは、政府が決めたら有無をいわさず道路にしる、ビルにしる、どんどん進めていくことです。昨年建設されたとい

う上海の中でひとときわ目立つのが、世界一高いという88回建てという説明を受けた「モリビル」、かなり首を反らさないと屋上まで見ることができませんでした。ホテルから郊外に出るまで、点在していた高級住宅街、富裕層の別荘で空き家が多い、と説明をうけました。

## 「教育を受ける格差」

疑問の2つ目は、1979年に

その一方で古ぼけたベランダのないアパートの小さな窓から洗濯物が所狭しと干されている光景にあいました。

中国の進むべき路を「社会主義現代化建設」に決め、科学的「社会主義」の基本原則を堅持するとしているとしても、教育の面でも格差があることです。曾田先生が日本語を教えておられる三江大学は日本円で40万円、1ヵ月3万円あれば夫婦ふたり暮らしている中国では、富裕層でないと私立三江大学には行かせることはできないそうです。その一方で、都市の籍を得るために、公立大学入学をめざして地方の子どもはものすごい勉強に耐えている現実。せめて教育は所得に関係なく公平に！と思わざるを得ません。

## めぐり

日中友好協会愛知県連合会長石川賢作氏が「季刊中国」2008年冬季号の中で、先に登場するはずの社会主義社会とはどのようなものと構想されているのか。

株式会社や私営企業の形で生産者から切り離された生産手段がどのように再び生産者と結合する社会を生み出すことが出来るのか。これらの問題についての回答を私は寡聞にして知らない」と述べていて、同じ思いを感じとして持った旅でした。

# 2009年度第41回 全国きりえコンクール 応募要項

日中友好協会の第41回「きりえコンクール」の作品の募集をはじめました。第40回のコンクールでは岡山の岸本幾代さんの作品「勝手口」が最優秀賞に選ばれました。日々きり絵に取り組んでいる方はもちろん、きりえに興味をお持ちの方も是非挑戦してみませんか。ご希望の方には応募要項をお送りします。日中友好協会岡山支部までご連絡ください。



第40回最優秀作 岸本幾代 「勝手口」

主 催：日本中国友好協会  
運 営・審 査：日本中国友好協会きりえ委員会  
審 査 日 時：2009年4月18日(土)

### ■応募規定

詳細はご連絡いただければお送りいたします。  
(日中岡山 TEI 086-272-3010)

### ■出品料

●大人：1人2点まで4,200円(税込) / ジュニア：1人1点につき525円(税込)

### ■作品搬入日(応募締切)

●4月6日(月)～8日(水)の間に到着するようにお送りください。

次回の新聞発送作業は  
2月12日(木)午後1時半  
民主会館2階で行います。  
前回お手伝いくださった方  
です。

竹内和  
竹内袈  
竹原